



## 《将来に向けた取組方針》

日立は環境負荷低減に対するグローバルな要請を踏まえた経営戦略として、2016年9月に環境長期目標「日立環境イノベーション2050」を策定しました。2030年・2050年を見据え、「低炭素社会」・「高度循環社会」・「自然共生社会」の実現をめざします。

自然共生社会においては、「自然資本へのインパクトの最小化」という目標を設定し、日立の事業が自然資本に与えるインパクトを「負のインパクト」と「正のインパクト」に分類し、「負のインパクト」の低減と「正のインパクト」の増大に取り組めます。

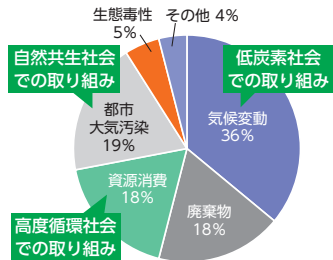
### 1. 環境長期目標 「日立環境イノベーション2050」



### 2. 自然資本へのインパクト最小化に向けた取り組み

「負のインパクト」を減らすために、製品・サービスの省エネルギー性向上、ファクトリーにおける効率化、資源の有効活用や化学物質削減といった環境負荷を低減する活動をより一層推進します。

また、「正のインパクト」を増やす活動として、森林保全などの社会貢献活動や、生態系の保全に直接貢献する事業活動を推進します。



### 《生態系保全活動事例》

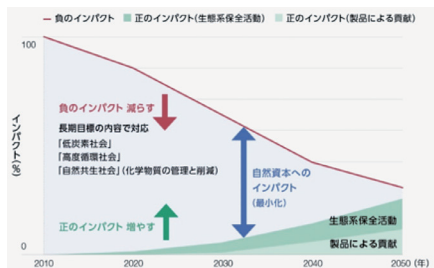
#### 海外事業所における植樹活動 (日立製作所 システム&サービスビジネス)

日立コンピュータプロダクツ(アメリカ)では、社内有志の環境ボランティアで植樹活動を行っています。2018年は果樹苗木400本を敷地内に植樹し、これまでに植樹した面積は約15エーカー(約6万m<sup>2</sup>)となりました。



#### 水源地地保全の森林整備活動 (日立製作所 水・環境ビジネスユニット)

安全で高品質な水を届けることを目的に、東京都の水道水源地林のうち山梨県甲州市の3.19haを担当し、この森を「きのぼん水源の森」と名づけ、森づくり活動に取り組んでいます。



自然共生社会 インパクト最小化の概略図